

令和7年度 第3回川崎市社会教育委員会議・中原市民館専門部会 会議摘録

【日時】 令和7年12月16日（火）10時00分～12時00分

【会場】 中原市民館第5会議室

【出席者】 川崎部会長、日吉副部会長、五十嵐委員、安藤委員、山本委員、山田委員、木村委員、赤野委員

【欠席者】 なし

【事務局】 福田担当課長、船津課長補佐、中島職員

【指定管理事業者】 土戸館長、高田副館長、神山副館長、工藤職員

【傍聴者】 2名

専門部会の委員8人全員が出席し、委員の過半数を満たしており、部会は成立。

〈資料〉

資料1 令和7年度 第2回川崎市社会教育委員会議・中原市民館専門部会 会議摘録（案）

資料2 令和7年度 中原市民館の管理運営について

資料3 令和7年度 中原市民館社会教育振興事業について

資料4 NFP感謝祭「なかはら Film Festival 2025」チラシ

資料5-1 令和8年度 中原市民館市民自主学級・市民自主企画事業の募集について

資料5-2 【白紙】市民自主学級企画提案書

資料5-3 市民自主学級・市民自主企画事業の選考表

資料6 川崎市社会教育委員会議中原市民館専門部会委員名簿

1 開会

2 資料確認

3 令和7年度第2回中原市民館専門部会の摘録（案）について

船津課長補佐）資料1について確認。摘録として成立する承認を得た。

4 議事

（1）報告事項

ア 市民館の管理運営並びに社会教育振興事業について

土戸館長）資料2について説明。

工藤職員）資料3について説明。

木村委員）識字ボランティア研修についての説明で、「教える」という言葉を使っていたが、川崎市では「教える」、「教えられる」の関係ではなく、“ともに学ぶ”共同学習を目指して来た。以後気を付けてほしい。エンパワーメント研修については、どのあたりがエンパワーメントなのか。また、生涯学習交流集会の開催日が決まっていたら教えてほしい。

工藤職員）市民館の利用者に対しては、ただ場所を使いに来ているだけという印象がある。もっと自分たちの市民館であると感じてほしい。装飾を作り、その装飾が飾られているの

を見て愛着を持ってほしい。作る過程を通して市民のエンパワーメントにつながってほしいという願いをこめて実施する。生涯学習交流集会は3月14日の土曜日に開催予定。

山本委員) サークル連絡会のオープンキャンパス実施への協力に感謝している。これまでにない来場者数であり、チラシの効果を感じている。人を集める工夫が多大であったと思う。

イ NFP感謝祭「なかはら Film Festival 2025」について

土戸館長) 多目的ホールで「おと絵がたり」、「16mm 映写機の会」、「おはなしパン」、「なかはらミュージカル」の4団体に協力してもらい実施した。定員100人のところ当日は20人ほどの寂しい参加となったが、協力してくれた4団体からは今後もこのような活動に参加したいとの前向きなコメントをもらった。市民館としては周知方法も含めて検討していきたい。

ウ その他

福田課長) 来年度、新たに多摩市民館と麻生市民館が指定管理となる。それ以外の予定について、教育文化会館は令和9年11月、幸市民館は改修後の令和10年4月、宮前市民館は令和14年に指定管理へ移行となっている。

(2) 協議事項

ア 令和8年度市民自主学級、市民自主企画事業の選考について

工藤職員) 資料5-1、5-2、5-3について説明。

船津課長補佐) 選考にあたり各項目で3以外の点数をつけた場合は理由を明確にしてほしい。落とすための選考ではない。できるだけ事業として成立させていくという趣旨となっている。また、資料5-2についてタイトルは市民自主学級企画提案書となっているが、市民自主企画事業の提案書も別途ある。

木村委員) 従来の手引きからの変更点はメールアドレスくらいか。

工藤職員) そうだ。

木村委員) それぞれの市民館で手引きの内容は変わってくると思うが、中原市民館の場合、多目的ホールは使用できることになっているのか。

工藤職員) できる。

木村委員) 「市民自主企画事業 実施の手引き」の5ページ目「9. 経費(1)」の「学級の開設前に一括して～」という部分の「学級」は「事業」の間違いか。

工藤職員) そうだ。

イ 次年度中原市民館の事業企画にあたっての課題抽出について

土戸館長) 12月になって次年度の社会教育振興事業の計画を立てているが、せっかくだから事業提案等があれば意見をほしい。

木村委員) 逆に指定管理者としては中原区固有の課題をどうみているのか。

- 工藤職員) まだ明確にはわからない。むしろそれぞれの立場から感じている課題を出してほしい。
- 山本委員) フィルムフェスティバルのような催しをもっと開催してほしいと思う。人が集まるところにモニターを設置して動画を流すという工夫をしてもよいと考える。例えば、1階のエレベーター前の人工芝には子どもだけではなく多様な年代の人が座っているのを見かけるため、候補としてよいのではないか。
- 五十嵐委員) 中原区の詐欺被害が多いことを残念に思う。スマホが使えないことでチケットを取れない等、社会から疎外されて残念な思いをしている人が増えている。一方で下手に手をだすと詐欺にあう可能性がある。デジタルサポートについては1年間の企画というよりは常時企画としておくとの世代の人が安心できるのではないか。
- 川崎部会長) 下手に素人が行うよりは企業とコラボして定期的にデジタルサポートを開催するのはどうかと考えた。
- 安藤委員) 子ども関連の事業が多いが詐欺被害や災害も多いため、防犯や防災関連の事業も増やしてはどうか。企業も防災となると協力してくれると考える。
- 山田委員) 12月7日に少年少女のつどいを開催するにあたりホールを使用したが備品の貸出については時間の制約があって早く来ても準備ができなかった。使用していないのであれば貸出をしてほしい。また、当日は市民館の駐輪場がひどい状況だった。自分の自転車が取れない。また、当日は市民館利用者が多く、前よりは市民館が使われていると感じた。また、デジタルサポートについては毎月開催してもよいと考える。
- 赤野委員) 1月17日にまなPフォーラムを開催する。中原区の小中学校にチラシを配布するが、このイベントを通じて小学生にも市民館の存在を知ってもらい、当日盛り上がるように進めたい。
- 木村委員) 自転車置き場が混むということは自転車を使って来る市民が多いということ。自転車やバスを使わないと市民館を利用できない地域に住んでいる人のためにも、出前講座をやってはどうか。また、市民館だよりや他の広報媒体を見ると、努力しているのは分かるが若者はあまりターゲットにされていないように感じる。一つ二つくらいは若者が対象の事業があってもよいのではないか。
- 日吉委員) 高齢者はスーパーのレジ等で支払いができないことがある。スマホだけではなく、そういうことにもデジタルサポートが必要。やってもらって当たり前、覚えられないから仕方がないという考え方ではもう生きていけないため、学ぶ必要性を感じさせるような事業があってもよいと考える。また、大学生以下の子どもたちが真ん中にくるような中原区になってほしいと思っている。子どもを塾や寺子屋等に行かせてその間に親が休むというような話を聞く。子どもに目がいていないため、子どもが生まれる前に子ども中心で考えられる親になれるような教育があったらよいと思う。
- 川崎部会長) 人生100年時代において、全世代の課題を網羅することは難しいと感じた。子どもを塾に行かせてその間に自分が休むというような、親でさえも自分の子どもに目を向けることができない現状は重症。2月に開催する教育を語るつどい等で啓発ができればよいと考えるが、本当に来てほしい人は時間が作れず来ることができない。そういう人たちに行っておいでと周囲が支援できるような社会になればいい。

ウ その他

山本委員) 市民館に期待している第一のことは講座等を通じて様々な学習ができること。仲間づくり等はそれに付随してくるものではあるが、それを表に出しすぎると参加に抵抗を感じる人たちもいると考える。講座等の開催にあたっては工夫して欲しい。

川崎部会長) 市民自主学級・市民自主企画事業の提案において、そのような企画があることを願う。

5 その他

(1) 次回以降(第4回)の専門部会の日程について

船津課長補佐) 第4回は令和8年2月14日に開催する。

(2) その他

特になし

6 閉会